

## 四季折々の森の植物や鳥・虫などの動物を紹介します

### 1. エノコログサ、アキノエノコログサ、キンエノコロ (いずれもイネ科です)

今年、地球市民の森の草原や園路脇にエノコログサが大きな群落を作っています。夏から秋にかけてつける花穂が、犬の尾に似ているところから、犬っころ草 (いぬっころくさ) が転じてエノコログサという名前になったとされています。子ども達がこの植物をネコジャラシ (猫じゃらし) と呼びますが、これはこの草の花穂を猫の視界のなかで振ると、猫がじゃれついてくることからついた俗称です。

エノコログサの仲間には他にアキノエノコログサとキンエノコロがあります。いずれも地球市民の森の草原や園路脇に生えています。

アキノエノコログサはエノコログサよりも大型で、花穂も大きく湾曲し垂れ下がる長さ10~15cmの花穂を出します。

キンエノコロは名前のおとおり、黄金色の穂を出すのでよく目立ちます。これは、小穂の基部に黄金色の堅い毛があるので、穂全体が黄金色に見えるのです。

いずれも1年草ですが、夏の畑に生えるイネ科植物のなかの厄介者で農家は除草に困ります。

しかし、森ではこの植物を食草とするバッタの仲間が増えるので、バッタを食べる野鳥や小動物が集まってきます。森の生物多様性の観点からエノコログサの仲間も大きな貢献をしていることになります。



### 2. ミクリ (ミクリ科)

ふれあいゾーンの「ふれあい池」にミクリが生育しています。ミクリは多年草で池や沼、水路、川岸などの浅い水の中に生育します。6月~8月に茎の上部に球状の穂をつけます。

雄の穂は上部につき、雌の穂はその下につきます。雌の穂は熟すと果実が集まって球状となり、お菓子の金平糖によく似た姿になります。名前はこの形が栗のイガに似るので「実栗」とついたといわれます。



### 3. アキノノゲシ (キク科)

園路を歩いていると、茎の先に黄白色の菊によく似た形の花をつけた植物を見かけます。この植物は、アキノノゲシで畑地、空き地、道ばた、等に生育します。茎は中空で高さが1~1.5mになります。葉は互生してつきますが、羽状に深く切れ込み、先は長く尖ります。葉や茎を切ると、白い乳液が出てきます。



### 4. バッタの仲間 (バッタ科)

今年、バッタの仲間が多く見られました。バッタの仲間はちょっとした草むらがあれば、すぐに見つかる身近なコンチュウです。植物の葉を食べるもの、他のコンチュウを捕らえて食べるものなど種類によって頭や口や体つきが違います。秋になると、土の中ふかくに卵を産みつけます。卵は、寒い冬を土の中ですごし、翌年の夏のはじめに幼虫がかえります。生まれたての幼虫は親の姿にそっくりですが、まだ羽はありません。羽は幼虫が脱皮をするたびにだんだん伸びてきます。



## 5. アメリカセンダングサ (キク科)



ふれあいゾーンの「ふれあい池」とその周辺にアメリカセンダングサが生育しています。草丈は、50-150cmにもなります。茎の切り口は四角形で、表面の色は暗紫色です。葉の付き方は対生しますが、茎の上方では互生することもあります。葉は3-5個の小葉に分かれます。

花季は秋で、9月～11月にかけて小枝の先に黄色の花をつけます。果実は扁平で、先に向かって幅が広がります。果実の先には2本の刺があり、下向きのかぎ状の剛毛が表面にあります。

オナモミなどと同様に、実は人間の衣服や哺乳動物の毛にくっついて遠くに運ばれるので、子ども達は「ひつつき虫」と呼んでいます。

## 6. センダン (センダン科)

地球市民の森にはセンダンが多く植樹されています。この樹は暖かい地方の海辺に自生していますが、街路樹や庭木としても利用されます。

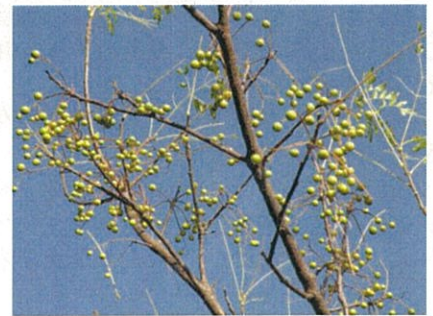
とても成長が速く、他の樹木を圧迫するので植樹林では間伐の対象になります。

葉は「2～3回羽状複葉」と呼ばれる形で、鳥の羽のように連なっていて日本原産の樹では珍しい葉のつき方です。

5～6月に薄紫色の花が咲きますが、10月につく黄色の実、晩秋に葉が落ちた後も枝に残り、秋の青空に映えて風情のある姿を見せてくれます。

「センダン(梅檀)は双葉より芳し」という有名なことわざがありますが、この「センダン」はインド方面の原産でビャクダン科の樹だと言われます。

とても香りがよく、これで仏像を作ったり、香としていたり、薄く削って扇子にしたりします。この香木の中国名をセンダンと読み違えたようです。



## 7. カラス (カラス科)

カラスは秋から冬にかけて集団生活をします。夕方、カラスの群れが一定の方向に飛んでいく姿を見られたことがあるでしょう。カラスはくちばしの細い「ハシボソガラス」とくちばしの太い「ハシブトカラス」の二種類がいます。

「ハシボソガラス」はくちばしがスマートで、鳴く声は「ガア、ガア」と濁った声で鳴きますが、「ハシブトガラス」のくちばしは上下に幅が広くて湾曲しています。鳴く声は「カア、カア」と澄んだ声で鳴くので、区別ができます。

びわこ地球市民の森では数の差はありますが、両方のカラスが見られます。家庭ゴミの集積所、漁港、川の浅瀬などに群がっていることをご覧になったことがあるでしょう。農家の方が田んぼを耕している耕耘機の後を多くのカラスがついてまわり、土の中から出てくる虫を食べている姿をよく見かけます。トビが何かを手に入れたことを知るとたちまち数羽のカラスが攻撃を仕掛けエサをかすめ取ろうとします。このように、カラスは鳴き声で他のカラスと意志を通じ合う等知能が高い鳥だと言われます。

繁殖期は春から夏で、一夫一妻で子育てをします。営巣は大きな樹に小枝を組んで作りますが、最近は針金やプラスチックを利用することもあるようです。子育て中は縄張り意識が強くなり、他のカラスや野鳥を攻撃します。

